

# 第38回「議員と語りかい」報告書

文教厚生常任委員会 (No. 1)

開催日	令和4年7月27日 15時00分 ~ 16時30分		
開催場所	議会棟4階 第3・4委員会室		
団体名	霧島市社会保障推進協議会	参加人員	5人 (男 4人:女 1人)
出席議員	平原 志保、山口 仁美、野村 和人、竹下 智行、久保 史睦 阿多 己清、前川原 正人		
役割分担	班 長 ( 平原 志保 ) 副班長 ( 山口 仁美 ) 記録係 ( 竹下 智行 )		
テーマ及び具体的な内容	新型コロナウイルス感染症 国民健康保険税・子どもの医療費の無料化 コロナウイルス感染症防止これからの対策 国民健康保険税引き下げへの対応は 子ども医療費無料化で子育て支援を		

	◆は参加者の質問・要望 ◇は議員の回答
意見交換での主な意見等	◆子どもの医療費無料化はできないのか。お金がなくて、子どもを病院に連れて行けない現状がある。子どものためにあるのに、なぜ現物給付できないか。九州では現物給付がないのは鹿児島県だけとなった。沖縄県は今年4月から始まった。現物給付方式を自治体が勝手にやると、国民健康保険療養費等国庫負担金を減額するペナルティがある。国はコンビニ受診が増えると言われていたが、それは間違い。増えていない。
	◇鹿児島県は18歳までは住民税非課税世帯は無料になっている。お金がある、なしに関わらず同じようにやるべき。
	◇九州で鹿児島県だけになったのは残念。市議会でも現物給付については執行部に要望を出す議員もいる。今後、県議会議員も動かし要望しなくてはいけない。
	◆兵庫県明石市は、医療費は高校生まで無料、給食費は中学生まで無料としている。自治体でやればできないことはない。
	◇熱がある子どもを連れて銀行や、ATMに寄って受診するのは結構大変で、現物給付があると良いと思う。

◆は参加者の質問・要望 ◇は議員の回答

◆愛知県は全体ではやっていなかったが、名古屋市は夜中でも窓口無料だった。霧島市でもやってやれないことはないと思う。明石市は保育園が2人目から無料、おむつが1歳まで無料。若い人が定住すれば税収も増える。

◆市町村の活性化は人が増えるかどうか。一時期は企業誘致して、雇用を増やせば人口が増えるみたいな時代だったが、今はそういう時代ではない。家にいてリモートで仕事ができる時代だから、もしかすると霧島はもっともチャンスがある。住みやすい制度を作ることが人口増につながっていく。医療、福祉が大きなポイントになる。

◆国保が高い。勤労者と違って会社の負担分がないから、天井知らずに上がってしまう。上がることに抵抗してもらい、払えない人にどうするかを考えてもらいたい。

◆医療費は今後も上がっていく。値上げをさせないということが大事。

◆今はコロナの影響で医療費が減っているので、国保税が減っている。

◆歳入には限りがあると思うが、歳出については考えることができる。

◇国の法律に基づいて県がやってそれに基づいて市がする。国民健康保険はいつでも誰でも安心して病院にかかることができる社会保障制度であるので、県の意向によって上げたり下げたりすること自体はおかしい。具合が悪い時に病院に行かず我慢していたら重症化し、結果的に医療費も上がっていく。国保が高いと言って国保に入らない人もいるが、保険証がないから10割負担になる。市町村にとってもハードルは高いが、保険料を上げない努力をしないといけない。

意見交換での主な意見等